教育研究発表会２０１７・公開授業ＰＲ一覧

和歌山大学教育学部附属小学校研究企画部・研究広報部

授業学級	授業者	単元・題材名
１２Ｆ	川村　繁博	１年　おおいほう　すくないほう　　２年　分数

子どもたちは元々柔軟な思考力をもっています。しかし，低学年の子どもたちは，自分の思考を表現する術を，まだ十分にはもち合わせていません。自分の考えを表現する術がなければ，互いの考えを共有しながら話し合うことはできません。

本単元では，子どもたちの思考をより豊かで確かなものとして表現させるためのツールとして，具体物の操作や絵図の活用に重点をおいた授業をめざします。

第１学年「おおいほう　すくないほう」では，求大・求小の逆思考の問題を操作や図を活用して整理し表現すること。第２学年「分数」では，分割分数や量分数などの分数を理解するうえで基礎となる分数を，操作活動を通して表現させ，数量を体感させたいと考えています。

１Ａ	上田　恵	おいしい秋

秋真っ盛りの 10 月末。９月から秋探しを続けると，いろんな秋が見つかるでしょう。秋の虫，秋の花，秋の学級園の様子，秋の樹木の様子，人々の秋の装い，店のディスプレイ，秋の年中行事・・・

スポーツの秋，読書の秋，芸術の秋，食欲の秋・・・

そうして見つけた「秋」を「食」をテーマに焦点化します。

見つけた「おいしい秋」を，自分で考えた方法で表現し，グループで話し合い，協力して，「秋のメニュー作り」をします。ぼく・わたしが，本当に食べたい「１Ａの秋メニュー」，どんなメニューになるのかな。

１Ｂ	南　拓哉	とびばこをつかった　うんどうあそび ～とびばこしゅぎょう　のまき～

いっぱい動いて，いいところを真似して遊んでいるうちに，「できるようになった」「楽しい」「こんなこともできるよ」を子どもたちから引き出したいと思います。

本研究は，子どもたちが「とびばこを使った遊び」を通して，運動の感覚を養うために「忍者ならどんな動きをするのか」を考えます。学習の前半は，自分の考えた忍者の動きに取り組みます。そして，全体交流を通して友だちの考えた動きを共有します。後半は，友だちの考えた動きを真似したり，更に動き工夫をしたりして，しゅぎょうをしていきます。子どもたちが，自分の考えた忍者像に向かって工夫する姿にご注目ください。

授業学級	授業者	単元・題材名
１Ｃ	田中　千映	みんな　みんな　たいせつ　「ぼくのしろくま」

「みんな　みんな　たいせつ」をテーマに道徳科と各教科等を関連させて取り組みます。この取り組みでは，子どもたちが自分の存在のよさに気付くとともに，動物や植物なども含めた他者も大事にしたいという心情を育てたいと考えています。

本時は，「ぼくのしろくま」の教材を通して，生き物も共に生きていることを感じ，「生き物を大事にしたいな」と，命について考え始める第一歩にしたいと思います。生活科で生き物の世話に継続的に取り組み，自分たちが生き物の世話をして感じたことと重ね合わせながら考え，友だちと思いを交流し合う子どもたちの姿をめざします。

２Ａ	川端　大奨	お気に入りを紹介しよう　自分だけのマイ　アーノルド　ワールド 「お手紙」

アーノルド・ローベルの代表作である「お手紙」は，まるで２年生の様子をそのまま表したような作品です。子どもたちがより主体的にアーノルド作品を読み深めていくために，お気に入りの場面を紹介するためのショーウィンドウを作成します。そのためには，がまくんやかえるくんの心情理解が必要です。そこで，ペア音読を取り入れ，動作化しながら読んでいくことで，「お手紙」をより身近に感じられるようにしていきます。これらの活動を通して，子どもたちががまくんやかえるくんの様子や気持ちを主体的に考える姿を見てください。

２Ｂ	糸我　直人	かけ算

かけ算というと，九九を覚えることだけに偏ってしまいがちです。そのため，しっかりとかけ算の意味を理解し，主体的に学習に向かう授業をめざします。５，２，３，４の段の九九では，意味や構造をしっかり学習し，６，７，８，９，１の段の九九では，学んだことを生かしながら，子どもたちが自ら九九づくりができるようにしていきます。「どうすれば○の段の九九の答えを出せるのだろう」と問いをもち，自分なりに絶えず思考し続け，子どもたちが互いの考えたことを分かりやすく伝え，表現し合い，深めながら問題解決に向かう姿を見てください。

２Ｃ	中西　大	街探検　～ぼくらの街の貴志川線～

私たちの街，和歌山市には「たま電車」で有名な貴志川線があります。廃線の危機にあったにも関わらず，今では日本全国に知れ渡っています。子どもたちは，駅や電車の見学，そこで働く人や利用者へのインタビューを通し，多くの人に乗ってもらうための努力や工夫に気付きます。そして，大好きな電車に乗ってもらうにはどうすればいいのかと，気付いたことから考え，自分たちのアイデアを出し合います。それは，新しい電車のコンセプトなのでしょうか。貴志駅のような楽しい駅づくりのアイデアでしょうか。それとも，宣伝効果を期待して取り組むものなのでしょうか。子どもたちの思考に沿って，気付きを深めたいと思います。

授業学級	授業者	単元・題材名
３４Ｆ	中村　正雄	なりきり〇〇日記　～わたしのお気に入りの本を紹介します～ ３年「モチモチの木」　４年「ごんぎつね」
本実践では，「モチモチの木」と「ごんぎつね」を３つの観点で読み進めながら，「豆太日記」「ごん日記」に表していきます。３つの観点とは「セリフ・行動・情景描写」です。これらの観点で文章の叙述に着目することで，登場人物の気持ちやその変化に迫ることができると考えています。そして，子どもたちはそれぞれ豆太やごんになりきって日記に表します。豆太やごんになりきった子どもたちの日記をもとに深い学びを展開していきたいと思います。		

３Ａ	湯浅　明菜	ぼく・わたしが語り手　「モチモチの木」を作ろう
「モチモチの木」は，語り口調により豆太のことが語られている創作民話です。３Ａの子どもたちが語り手となり，音読絵本を作るという目標を設定します。作品に対する自分の思いや考えを表現しようとすることで，叙述から伝わる人物像や心情，登場人物の関わり等について考えます。 どのようなことが伝わる音読にしたいかを考えることで，語り手となる自分の，主人公豆太に対する見方や，じさまやモチモチの木との関わりについて考える姿をご覧ください。		

３Ｂ	久保　文人	電気で明かりをつけよう　～点めつのひみつをさぐろう～
単元を貫いた課題を提示し，そこから出た疑問を学習課題に設定することで，子どもたちの意欲がどうなるのか研究しています。３年生の電気単元では「点滅の秘密」を探っていきます。 豆電球に導線と電池を使って明かりをつけたり，電気を通すものを調べたりした経験がない３Ｂの子どもたち。「どうしてついたり，消えたりするの？」そんな疑問を解決するために，実験や話し合いを重ねていきます。キーワードは「比較する」。自分のイメージと目の前の現象，自分の考えと友だちの考え，様々な比較を通してズレを見つけ「深い学び」をめざします。研究会では，子どもたちが実験結果を比較しながらきまりをみつけようとする姿をご覧ください。		

３Ｃ	則藤　一起	ゴール型ゲーム　はこはこバーン　～ズレをつくってシュート！～
３Ｃの子どもたちは，ボール運動が大好き！でもゲームになると・・・なかなかボールに触ることができない，速いボールがこわいなどの要因から楽しめなくなることがあります。一人一人が楽しめる運動にするには，それらの要因を取り除かなければなりません。子どもたちの実態を見ると，それ以上にまずボールを投げるときの身体の操作が必要です。手の振り方（上や横から）や身体の向き，ボールを投げる方向（バウンドも），力加減などを考えさせ，自分の身体を思ったように動かしてシュートできるようにしていきます。同時に，ボールの受け方も考えさせながら，「はこはこバーン」を楽しんでいきます。		

授業学級	授業者	単元・題材名
４Ａ	中山　和幸	自然災害から人々を守る ～浜口梧陵に学ぶわたしたちのまち和歌山の防災～

本単元は，「地域の発展につくした人々」と「自然災害から人々を守る」の複合単元です。

単元の前半では，浜口梧陵の苦心や願いに迫る中で，梧陵の取り組みを防災の視点で捉え，その意味や役割について考えていきます。単元後半では，主に和歌山県庁の防災に対する取り組みを調査し，災害に対する備えや活動について見直す中で，県民の防災意識など，実社会に存在する地域の課題の解決に向けて学習を進めていきます。

社会的事象を時間・空間・関係的な視点で捉え，「あれども，見えず」だったものがたくさん見えてくるような学びをつくっていきたいです。

４Ｂ	宮脇　隼	語り手になろう　～ごんと兵十とわたし～　「ごんぎつね」

ごんぎつねは，悲劇的な結末から読者の心に衝撃を与える作品です。しかし，この作品にはあまり描かれることのない「語り手」が存在し，悲劇的な物語の中にも安らぎを与えてくれます。本実践では，「語り手となり，この物語を誰かに伝えるとしたら」という視点で作品を読み，味わわせます。作品を語るためには，登場人物に寄り添うことと自分の考えを付け加えることを大切に展開していきます。また，「この話をしないと，最後の結末を伝えても意味がない」という構成や仕掛けに目を向けることもできます。ごんぎつねで学習したことを生かし，別の作品を誰かに伝える「語り手」を育てる学習を進めたいと考えています。

４Ｃ	馬場　敦義	電気のはたらき　～くらべることからさぐっていこう～

子どもたちにとっては，電気の学習は難しいものです。身近にありながらも，電気を目で見たり，触れて感じたりすることができないからでしょう。昨年度の「電気で明かりをつけよう」に引き続き，今年度も電気分野の単元を行います。電流の性質を理解するためには，電流に対するイメージを豊かにしていくことが大切です。そのため本単元では，体験を充実させていくことで，子どもたちそれぞれのイメージを豊かにしていきます。また今年度は，当日３年生と５年生でも電気分野の理科の授業を公開致します。学年間のつながりも見ていただき，本校の取組を提案することができればと考えております。よろしくお願いいたします。

５６Ｆ	矢出　大介	学校改革　～みんながイノベーター～

他教科や総合的な学習の時間で学んだことを活用して学びに向かう力を身に付けたいと思います。課題を解決するための見方・考え方を共有することで，これまでの学びを活用しながら自分たちで学びに向かっていける単元を考えました。異学年の課題に対する見方・考え方を共有することで，異学年の交流を生み出したいです。全員の考えを活かして実現可能な学校改革案を考え，実行していこうとすることで，互いの考えを認め合い，学校改革について問い続けます。そして「学校を良くしたい」と改革に必要なことを考え，実践することを繰り返し，自分ががんばることで人を幸せにできるイノベーターになってほしいです。

授業学級	授業者	単元・題材名
５Ａ	岩﨑　仁	電流がつくる磁石　～電磁石の正体をさぐれ～

５年Ａ組は電磁石の授業をします。子どもたちが主体的に問題解決をしながら「電磁石の性質」に迫っていきます。

新学習指導要領では，単元名「電流の働き」から「電流がつくる磁力」に変更されています。「磁力」という言葉が単元名に入り，電流と磁力の量的・関係的な見方を意識していることがわかります。そこで今回は，子どもたちが身近な物から電磁石の仕組みに目を向けて考え，電流がつくる磁力について追究していける単元構成となっています。

29 人の素敵な子どもたち１人ひとりが言葉をつなぎ，まとめ，つくる理科の 45 分間をぜひ見に来てください。

５Ｂ	小谷祐二郎	割合

新学習指導要領のキーワードの１つに各教科の特質に応じた「見方・考え方」があります。算数科にはこれまでも思考・判断・表現の観点としての数学的な考え方がありましたが，資質・能力３つの柱すべてに働く「数学的な見方・考え方」について捉え直す必要があります。今回私は，割合の学習において生きて働く「見方・考え方」を「割合的な見方・考え方」と考えました。「白っぽい」や「あと少し」等，子どもたちが日常的に数量の関係に着目して捉えている「割合的な見方」や，それらに根拠を求める際に図や表に表わそうとする「割合的な考え方」を働かせる新しい割合学習を提案します。

５Ｃ	西原有香莉	とっておきの線

「絵」「立体」「工作」のどの活動にも，欠かせない要素である「線」。「立体」「工作」を形作る際にも「線」は重要であり，「線」の表現の質は，作品の印象に大きく影響を与えます。本題材では，その「線」がもつ魅力と表現の可能性を，子どもたちの「形」や「色」に関する知覚と結びつけ，探っていきます。

それぞれが生み出す表現に価値を見出したりこだわりをもったりするために，線を描く道具をつくることから活動を始めていきます。「とっておきの線」をつくる活動を通し，感覚的世界の体験を重ねることで，後の造形的な表現活動がより豊かになる学習をめざします。

５Ｃ	内垣　美佳	曲想を生かして演奏しよう　～２つの「キリマンジャロ」～

楽器に興味津々な５年生。今回，「キリマンジャロ」を合奏します。学級を２つのグループに分けて合奏し，演奏に対する思いや意図を伝え合ったり，演奏を聴き比べたりします。本題材では次の①②を大切にしながら授業を進めていきます。①「言葉で伝え合う⇔実際に演奏する」を繰り返しながら，曲の特徴にふさわしい表現を工夫します。②「どんな力が身に付いているか」「これからどんな力を身に付けたいか」を，子どもたち自身が認識できるようにふり返りの活用をして，既習の知識や技能を生かしたり，さらに知識や技能を得たりしながら合奏できるようにします。仲間と対話しながら合奏する楽しさを味わう子どもの姿をめざします。

授業学級	授業者	単元・題材名
６Ａ	梶本　久子	みんなの願いと政治　～現在の陸奥宗光になろう～

今年の梶本学級の授業は違います！子どもの意識と事実のずれをポイントにインバウンド観光の課題について話し合います。

様々な視点から考え，断片的な知識から概念的・統括的な知識に高めるための練り合いの場になればいいと思っています。しかし，それだけでは学びの深まりは生まれません。ずれから生まれる問いに熟考する姿もご覧ください。まちづくりに関わる方々と交流する中で，現状の厳しさを受け止め，熱心に追究しています。そして，その考えを地域に発信するため，使命感に駆られている 29 人の子どもたち。「和歌山県の未来に対する思いは誰にも負けない」と本気になって話しています。ぜひ，その熱意あふれる話し合いを見てください。

６Ｂ	中岡　正年	違いを感じて，魅力を伝えよう 「『鳥獣戯画』を読む」「この絵，私はこう見る」

単元の初めと終わりに「この絵，私はこう見る」を参考にし，自分が魅力を伝えたい実際の絵画についてどのように表現するかを思考し，文章化します。その際，子どもたちは，多くの人に「鳥獣戯画」の魅力を伝えている「『鳥獣戯画』を読む」を読みとることへの意識が高まると考えています。

「『鳥獣戯画』を読む」において筆者が作品をどのように捉え，どのように魅力を伝えているのかに迫るため，互いに意見を伝え合う場面が本時になります。友だちの意見との違いを感じ，相手に自分の思いをより伝えるためにはどうすればよいかを，主教材からつかみ，自分の表現に生かしていけるようになってほしいと考えています。

６Ｃ	吉久　寛郎	資料の調べ方

新学習指導要領では，領域が見直されました。その一つに挙げられるのが，「データの活用」です。本単元では，現行では取り扱わない最頻値や中央値などにも目を向けながら，問題解決をめざしていきます。

問題解決に至るプロセスとしてＰＰＤＡＣサイクルを意識した単元を計画したいと考えています。自分の考えの妥当性や他者との考えの違いを，複数の見方や考え方が存在する課題を通して見出していけるようにしたいと考えています。